

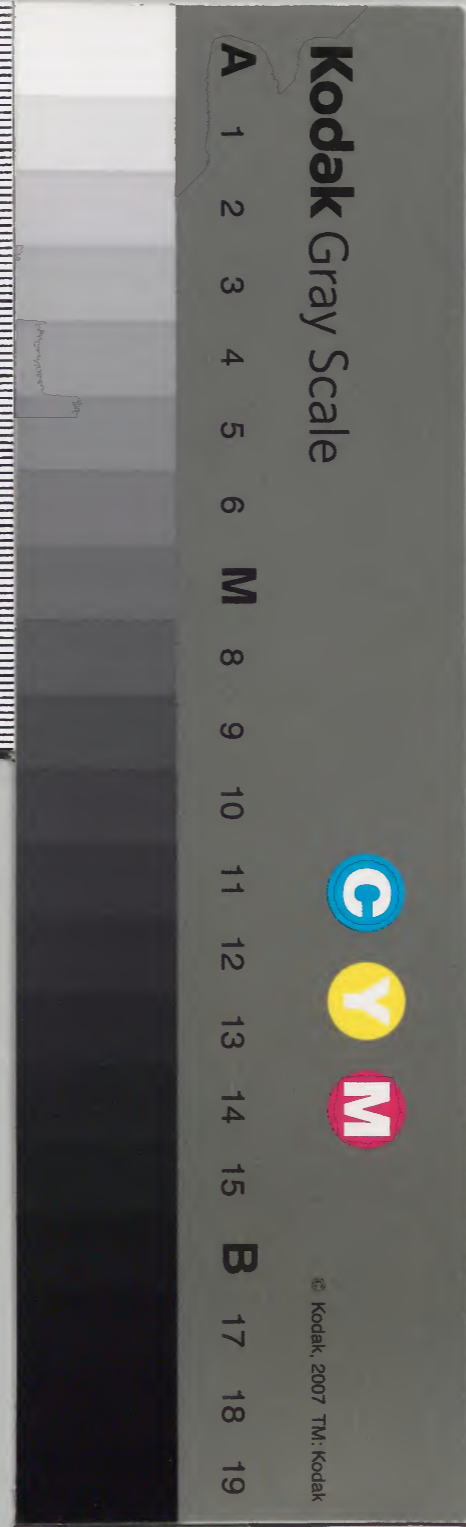
# 参考保元物語

一下

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 和書門 |   |   |
| 八   | 七 | 六 |
| 一   | 八 | 二 |
| 八   | 九 | 二 |
| 冊   | 架 | 函 |

|      |   |   |
|------|---|---|
| 內閣文庫 |   |   |
| 一    | 八 | 七 |
| 六    | 八 | 二 |
| 七    | 冊 | 號 |
| 函    | 冊 | 架 |

|      |         |
|------|---------|
| 內閣文庫 |         |
| 番號   | 和 8762  |
| 冊數   | 8 ( 3 ) |
| 函號   | 167 34  |



官軍被召集事

去程ニ内裏ヨリ左大將公教師。

太政大臣藤實行子。京師杉原鎌倉

半井四本作右大將。藤宰相光頼卿。權中納言藤顯頼子二人。

御使ニテ八條烏丸美福門院へ參り權右少辨惟

方ヲ以テ。

京師杉原鎌倉本無以下。惟方。句。惟方宰相光頼弟。

ヲ申出サル。

京師本杉原本云。兩人是。此兵亂ノ出

來ランスル事ヲハ兼テ知召ルニヤ。内裏へ召

ルへキ武士ノ交名ヲ註シ置セ給へル也。義朝義

康頼政源仲政子季實重成源重實子。即下所謂維繁實

佐渡式部大輔也。

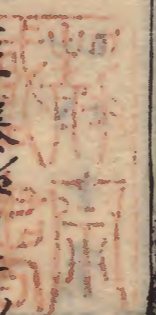
康頼政源仲政子季實重成源重實子。即下所謂維繁實佐渡式部大輔也。

康頼政源仲政子季實重成源重實子。即下所謂維繁實佐渡式部大輔也。

參考保元物語

卷一

下



俊資經信兼

平盛兼子。即下所謂和泉左衛門尉也。

光信

源光國子。即下所謂出羽

判官也。等也。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。武士ノ交名

ヲ御自筆ニ註シ置レタリ。義朝義康賴政信兼

杉原本誤作信貞

實俊以上五人也。

以上半井本同本書

其中ニ義

朝義康ハ別シテ故院ノ仰蒙テ去六月ヨリ内

裏ヲ守護シ奉ル上。近日ハ殊ニ諸門ヲ固テ祇

候ス。云云。半井本又云。清盛賴政佐渡式部大輔

同重成ハ

按行ス同字

故院ノ御遺言ノ内ナレハトテ。

女院ヨリ内裏へ進ラセラル。云云。

安藝守清盛ハ多勢ノ者ナレハ。尤召ルヘケレ共。

一宮重仁親王ハ。故刑部卿忠盛ノ養君ニテマシ

一セハ。清盛ハ御乳母子ナレハ。故院御心ヲ置セ

給テ。御遺誠ニモ入給ハサリシヲ。女院御謀ヲ以

故院ノ御遺誠ニ任テ。内裏ヲ守護シ奉ルヘシト

御使有ケレハ。清盛舎弟子共引具シテ參ケリ

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。其外

半井本云。周防

判官季實。平判官和泉左衛門尉信兼。云云。按此三人。半井本前載御遺誠十人中。自相齟齬職

新院御所

事ノ催ニテ參ル。總シテ諸國ノ宰吏兵士ヲ進  
ラス。諸衛官人云云。

諸國ノ宰吏諸衛官人六府判官各兵仗ヲ帶シテ

候ケリ。此下京師杉原鎌倉本不載公家ニハ關白殿下内大臣

實能左衛門督基實。法性寺關白忠通子伏見源中將師仲。中納

言師時子。按公卿補任師仲保元元年トソ參ラ

四月任參議止中將此作中將非也。レケル。半井本云。關白殿以下殿上人ニ

新院御所各門々固カク附軍評定事

新院ハ齋院ノ御所ヨリ北殿へ遷ラセ給フ。左府

ハ車ニテ參給フ。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云十日新院齋

院御所。鎌倉本半井本無十日字。半井本云。分内

ヨリ北殿へ入セ給フ。云云。杉原本云。御車ニ奉

テ參給フ。云々。

白河殿ヨリ北河原ヨリ東春日ノ末ニ有ケレハ。

北殿トソ申ケル。南ノ大炊御門面ニ。東面ニ門ニ

ツアリ。東ノ門ヲハ平馬助忠正承テ父子五人并

ニ多田藏人大夫頼憲。頼憲京師本鎌倉本都合ニ

後考保元物語

卷一

三十一

百餘騎ニテ固タリ。

鎌倉本無ニ字岡崎本云三百餘騎京師本杉原本不載兵數

半井本云百騎ニ過ス云云

西ノ門ヲハ六條判官為義承テ父

子六人シテ固タリ其勢百騎許ニハ過サリケリ。

京師本杉原本不載兵數

是コソ猛勢ナルヘキカ嫡子義朝ニ

附テ多分ハ内裏ヘ參ケリ爰ニ鎮西八郎為朝ハ

我ハ親ニモ連マシ兄ニモ具スマシ高名不覺モ

紛又様ニ只一人如何ニモ強カラシ方ヘ差向給

ヘ縦千騎モアレ萬騎モアレ一方ハ射拂ハシス

ル也トソ申ケル依テ西河原表ノ門ヲソ固ケル

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云西ノ門ヲハ

為朝一人シテ承ル

鎌倉本云其勢七十餘騎

西鎌倉本表ハ

河原也為義父子是ヲ固云云

鎌倉本云其勢百五十騎

北ノ春日表ノ門ヲハ左衛門大夫家弘承テ子共

具シテ固タリ其勢百五十騎トソ聞ヘシ

京師杉原鎌倉

半井本不載兵數

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云其外脇ケノ

小門ヲハ次ケノ兵共各是ヲ承凡院中ノ御勢

千餘騎有ケレトモ御所ハ廣シ方ケヘ分タリ

ケレハ。何クニ人アリトモ見ヘス云々。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。新院左府御著背キセヲ

名。教長京師本杉原本云。教長見進ラセテ。太上

給ハニ事。先代未聞。暑キ節ニテ候。サナクトモ

渡ラセ給ヒナント諫申ケレハ。院モ左府モ脱

セ給フ。教長成雅以下。上北面水干袴分ニ腹卷ヲ

著ス。武者所衆甲冑ヲ帶ス云々。

○半井本云。院モ左府モ御鎧ヲ奉ル。教長有マシ

ウ候。御物具召レ候事惡カリナント申ケレハ。

院ハ御鎧ヲ脱セ給フ。左府ハ猶白綿ノ狩衣ニ。

緋火威ノ鎧ヲ召ケル。教長成雅許ワ水干袴

ニ腹卷著ル。是ハ戰ハシニハ非ス。流矢ノ為也。

上北面ニ師光家長頼助ハ狩衣袴ノ上ニ腹卷

ヲ著。武者所衆ハ仰ニテ。皆甲冑ヲ帶ス云々。

抑抑為朝一人トシテ。殊更大事ノ門ヲ固タル事。武

勇天下ニ許サレシ故也。件ノ男器量人ニ越ス心飽ア

迄剛ニシテ。大力ノ強弓。矢ツキ早ノ手キハナリ。

弓手ノ肘馬手ニ四寸伸テ。矢束ヲ引事世ニ越夕

リ。幼少ヨリ不敵ニシテ兄ニモ所ヲ、カス。倘若  
 無人也シカハ。身ニ添都ニ置テハ惡カリナント  
 テ。父不孝シテ。十三ノ歳ヨリ鎮西ノ方へ追下ス  
 二。豊後國自此以下為朝九州戰功。半井本出新院  
 名為義段。為義告教長之語。半井本云。  
 才トナシ。ニ居住シ。尾張權守家遠ヲメノト、シ。  
 京師本杉原本鎌倉本  
 無尾張權守云々。句。肥後國阿曾平四郎忠景カ  
 子ニ。三郎忠國カ壻ニ成テ。忠景。杉原本作高景。京  
 師杉原鎌倉半井四本  
 不載子忠國直。  
 作平四郎壻。君ヨリモ給ハラヌ九國ノ總追補  
 使ト號シテ。筑紫ヲ從ヘントシケレハ。菊池原田

ヲ始トシテ。所々ニ城ヲ構ヘテ楯籠レハ。其義ヲ  
 ラハイテ落シテ見セントテ。イマ夕勢モツカサ  
 ルニ。忠國計ヲ案内者トシテ。其義云々。京師杉原  
 鎌倉本竝無。唯半井  
 本忠國作舅忠  
 景。說見干上。十三歳ノ三月。半井本  
 作十月。末ヨリ十五  
 歳ノ十月。半井本  
 作三月。迄。大事ノ軍ヲスル事二十餘度。  
 城ヲ落ス事數十箇所也。城ヲ攻ル謀敵ヲ打術人  
 ニ勝レテ。三年カ内ニ九國ヲ皆攻落シテ。自ラ總  
 追補使ニ押成テ。半井本云。今年六年ニ成候也。京  
 師杉原鎌倉半井四本自此至宣  
 旨及為義解官年月竝不載。而京師杉原鎌倉三本  
 竝云。鎮西ヲ張行。狼藉法ニ過。九國舉テ訴ケレハ。

判官ニ仰テ召トモ參ラヌ。其咎ニ依テ為義解官  
セラレテ云々。半井本云。為朝力狼藉京迄聞ヘケ  
レハ。公家ヨリ召トモ參ラヌ。為義解  
官セラレ。前判官ニソ候ケル云々。惡行多カリ  
ケルニヤ。香椎宮ノ神人等都ニ上リ訴申間古ヘ  
久壽元年十一月二十六日。德大寺中納言公能卿  
左大臣藤ノ上卿トシテ。外記ニ仰テ宣旨ヲ下サ  
實能子

源為朝久住宰府。忽緒朝憲咸背。綸言梟惡頻聞。  
狼藉尤甚。早可令禁進其身体。宣旨執達如件。  
然共為朝猶參洛セサリケレハ。同二年四月三日父

為義ヲ解官セラレテ。前檢非違使ニ成サレケリ。

按本書及岡崎本。久壽宣旨年月未詳。所據為義

解官年月亦恐妄也。百練鈔云。久壽二年四月三

日。源為朝居豐後國。騷擾宰府。威脅管内。仍可禁

遏與力輩之由。賜宣旨於太宰府云云。台記久壽

元年十一月二十六日條云。今日右衛門尉為義

位解官。依其子為朝鎮西濫行事也。云云。亦不載

宣旨據二書說。則久壽元年為義解官。至明年賜

宣旨耶。餘無所考。



為朝是ヲ聞テ。親ノ科ニ當リ給フランコノ殘ニ  
 シケレ。其義ナラハ。我コノ如何ナル罪科ニモ行  
 ハレシストテ急上リケレハ。國人共モ上洛スヘ  
 キ由申ケレハ。大勢ニテ罷上ラン事上聞穩便ナ  
 ラストテ。京師本杉原本鎌倉本並云。為朝コノ九  
 タルカナト云。讒言蒙テ詮ナシ。志アラ  
 ニ人ハ追クニモ上ルヘシト云。形ノ如ク  
 ニ附從フ兵計召具シケリ。乳母子箭前拂須藤九  
 郎家季其兄京師本杉原本鎌倉本并四本並云。山法  
 郎家季其兄京師本杉原本鎌倉本并四本並云。山法  
 無其スキマカクヘノ惡七別當諸本並云。アキマ  
 兄字。スキマカクヘノ惡七別當諸本並云。アキマ

當手取與次同與三郎。鎌倉本不載。杉原本無郎字。  
 三郎為三町礫紀平次大夫大矢新三郎。大矢半井  
 一此人。夫此下載同四郎霞五越矢源太松浦二郎左中次。  
 郎吉田太郎兵衛太郎。越矢源太松浦二郎左中次。  
 越矢源太松浦二郎左中次。越矢源太松浦二郎左中次。  
 ハヤノ源太同左平次而不載。京師杉原本并本云。ト  
 二郎。而リヤ源太松浦吉田兵衛岡崎本有太郎打手  
 紀八打手鎌倉本作手打京師杉原高間三郎同四  
 郎以上二人半ヲ始トシテ二十八騎ヲ具シタリ  
 ケル。鎌倉本云。是等ハ一人當千人兵也。其勢都合  
 五十餘騎云々。按鎌倉本前云。為朝勢七十餘  
 騎自 齧齧

○京師本杉原本竝云。カナユフシノ彌平次彌京師本  
作是等ヲ始トシテ。杉原本云。一騎當千ノ兵十七騎。都合五十  
餘騎ニハ過ス。云々。

依テ去年ヨリ在京シタリシヲ。父不孝ヲ赦シテ。  
今度ノ御大事ニ召具シケル也。以下異本、說為朝別、出于下。  
ハ七尺許ナル男ノ。目角ニツキレタルカ。緝地ニ  
色々ノ絲ヲ以テ獅子丸ヲ縫タル直垂ニ。八龍ト  
云鎧ヲ似セテ。白キ唐綾ヲ以テ威シタル。大荒目  
鎧。同獅子金物打タルヲ著マ、ニ。三尺五寸ノ太

刀ニ熊皮ノ尻鞆入。五人張ノ弓。長サ七尺五寸ニ  
テ。ツク打タルニ。三十六差タル黒羽ノ矢負。堦ヲ  
ハ郎等ニ持セテ歩出タル體。樊噲モ角ヤト覺テ  
由々シカリキ。謀ハ張良ニモ劣ラス。サレハ堅陣  
ヲ破ル事。吳子孫子カ難トスル處ヲ得。弓ハ養  
由ヲモ恥サレハ。天ヲ翔ル鳥地ヲ走ル獸。恐スト  
云事ナシ。上皇ヲ始進ラセテ。アラユル人々。音ニ  
聞ユル為朝見ントテユフリ給フ。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。其後為義ヲ

召テ。合戰ノ次第半井本云。左御尋アリ。為義長  
 縮直垂ニ黒絲威鎧ヲ著。白髮糟尾ニ過タリ畏  
 テ申ケルハ。已前申上候如ク。為義合戰ニ練セ  
 又者ニテ候。半井本云。已前教長ニ申ツル如ク  
 身ニ成候間。大功成為朝ニ召問ルヘシトテ罷  
 カタク候。為朝云々。  
 立。彼為朝サル者ト兼テ聞召置タル上。父是程  
 ニ舉シ申ハ。様有ヘシトテ召出サル。氣色事カ  
 ラ頰魂誠ニイカメシケナル者也。鎌倉本云。其  
 長七尺許。生附タル弓取ニテ。弓手ノカイナ事

手ヨリ四寸長ケレハ。矢束ヲ引コト十五束。半井  
 本云。十弓ハ八尺五寸。長持ノ柄ニモ過タリ。半井  
 八束。三人シテ張。鎌倉本云。張時ハ三人ニ  
 タヲメサセテ。一人ヨリテ弦ヲカク云々。矢ハ  
 三年竹ノ極テ節近ニ金色ナルヲ。洗ヒ磨カハ  
 性弱リナントテ。節ハカリユソケ。本賊ヲ以テ  
 磨キ。猶モ輕クテ折モヤセントテ。鐵ヲノヘテ  
 篋中過ルマテ節ヲ通シテ入タリ。猶モ輕クテ  
 井本。羽ハ鷲梟鷄ノ羽ヲ嫌ハス。藤ハキニ卷夕  
 不載。羽ハ鷲梟鷄ノ羽ヲ嫌ハス。藤ハキニ卷夕  
 リ。管コラヘスシテ破碎ケル間。角ヲ續テ朱ヲ

指タリ。箬コヲヘスレテ。云矢ノ根ハ楯破鎌倉本云

尾鳥舌ニモアラス。鑿ノ如クナル物ヲ。サキ細

ニ厚サ五分。廣サ一寸。長サ八寸ニウタセテ、

チキハヲハ篋ニスリキセ。氷ナトノ楯ニトキ

磨タリ。刃本ニ油ヲサス。上矢ノ鏑ハナニ朴ホウキ

イラキナトヲ以テ。目ノ上八角ニ押削リ。目九

ツサシタルニ。刃一寸手六寸。巨六寸ノ大雁股

ヲ子チスケタリ。三峯ニスリタテ、三峯鎌倉本作四峯

峯ニモ刃ヲツケタレハ。三峯云々至此。杉原本不載小長刀ヲ

ニツ打違ヘテ。磁子ニ立ヌルニ異ナラス。幹ハ白

篋ニ。山鳥ノ羽。鶴ノ霜フリヲ合ハキニ。本四立

ニシテハキタリ。二十四指タル箴ニ。此鏑ヲ四

筋差添タリ。褐ノ直垂ニ。獅子丸ヲ縫タルニ。白

キ白京師本鎌倉本作黒唐綾ヲフトク疊テ威シタル大

荒口鎧。獅子丸ノ裙。金物白覆輪ナルヲ著タリ。

鎌倉本半井本無白覆輪字練鐔ノ黒漆ノ太刀三尺八寸。鎌

倉本本作三尺六七寸熊皮ノ尻鞆入テ帶タリ。弓脇

ニ挾三井本同本書鎌倉本云塗籠藤ノ弓持。塙高紐ニカ

父ノ跡ニ居替テ畏ル。京師杉原鎌倉本並云為  
翔ル翼以テ地ヲ起ル獸ヲサケ針ヲ新院母屋ノ御簾  
モハツツスト云事ナシ云云  
ハヲ綻ハシハ叡覽アリ。龍顏ハ頰ハ咲壺ニ入セオハシ  
ハス。云々

左府京師杉原鎌倉本並云大床ニ候シカ遥ニ見  
出シテ笑給フ為朝既ニ參候誠ニ由ケシキ  
兵ニテ候一人當千トハ是ヲ即合戰ノ趣計ハ申  
コソ申サメトテ御感アリ  
セト宣ヒケレハ。畏テ為朝久シク鎮西ニ居住仕  
テ九國ノ者共從ヘ候ニ附テ。大小ノ合戰數ヲ知  
ス中ニモ折角ノ合戰二十餘箇度也。京師杉原本  
並云二十度

ニ餘リ三十度或敵ニ圍カレテ強陣ヲ破リ。或城  
ニ及フ云云ヲ攻テ敵ヲ亡スニモ。皆利ヲ得ル事夜討ニシク  
事侍ラス然レハ只今高松殿ニ押寄三方ニ火ヲ  
懸一方ニテ支候ハシニ火ヲ遣レン者ハ矢ヲ免  
ルヘカラス矢ヲ恐レン者ハ火ヲ遣ルヘカラス  
主上ノ御方心ニクハモ候ハス但兄ニテ候義朝  
ナトコソ懸出スラメソレモ真中差テ射通レ候  
ナン

○杉原本云其外ノ奴原ヲハ太刀引拔テ真中ニ

参考傳元物語 卷一

カケ入。遠カララン者ヲハ指及ヒ。近カララン奴ヲ  
ハ片手打ニ切テハ落シ。ナキ落シ拂落シ。近ツ  
カシ者ヲハ搔カキツミ提ヒサケテサケ切ニ。切テハ落シ切  
テハ捨。或ハ首子チ切。或ハ腕ウデ引抜引サキナト  
シテ馳廻ラハ。誰カハ面ヲ向ヘキ。マシテ清盛  
ナト云々。  
増テ清盛ナトカヘ口く矢。何程ノ事カ候ヘキ。錯  
ノ袖ニテ拂。蹴散ケチシテ捨ナシ。行幸他所ヘナラハ。  
御免ユルサレヲ蒙テ。御供ノ者少々射ニスル程ナラ

ハ。京師杉原鎌倉半井四本竝云。行幸他所ヘナ  
ラハ。御輿ニ矢ヲ進ラセ候ヘシ。定テ云ケ。  
定テ駕輿カ丁モ御輿ヲ捨テ逃去候ハニスラン。  
其時為朝參向ヒ行幸ヲ此御所ヘ成シ奉リ。君  
ヲ御位ニ即ケ進ラセシ事。掌タテマヲ返ス如クニ候  
ヘシ。主上ヲ迎へ進ラセシ事。為朝矢ニ三放サ  
ンスル許ニテ。イマ夕天ノ明サラン前ニ。勝負  
ヲ決セン條。何ノ疑カ候ヘキト憚ハカ所モナク申  
タリケレハ。左府。為朝カ申様以外ノ荒儀也。歳  
ノ若キカ致ス所カ。夜討ナト云事。汝等カ同士

軍十騎二十騎ノ私事也。流石主上上皇ノ御國爭  
ニ源平數ヲ盡シテ兩方ニ有テ勝負ヲ決センニ  
無下ニ然ヘカラス。

○半井本云我身ノ無勢ニテ多勢ノ中ヘカケ入  
テ。シリツギナクテ入コメラレナハ如何セン。  
今夜ハカリ相待ヘシ。云云。

○京師本杉原本鎌倉本竝云源平兵數ヲ盡シテ  
引分ル各故實ヲ存テ互ニ思慮ヲ廻ス。用意疎  
ニシテハ甚叶フヘカラス。凡合戰ト云ハ謀ヲ

以テ本トシ勢ヲ以テ先トス。然ルヲ院中ニ召  
置ル、所ノ軍兵幾ナラス。卒爾ニ發向セン事  
然ルヘシトモ覺ヘス。云々。

其上南都ノ衆徒ヲ召ル、事アリ。興福寺信實源頼  
玄實即信實子等吉野十津河ノ指矢三町。遠矢八町  
ト云者共シ召具シテ千餘騎ニテ參ルカ。今夜ハ

宇治ニ著富家殿忠實ノ見參ニ入。曉京師鎌倉本作卯辰時杉原半  
井本作此ヘ參ヘシ。彼等ヲ待調テ合戰ヲハ致ヘ  
シ。又明日院司公卿殿上人ヲ催サンニ參サル者

トモヲハ死罪ニ行フヘシ。首ヲ刎ル事兩三人ニ  
及ハ、殘ハナトカ參サルヘシト仰ラレケレハ。  
爲朝上ニハ承伏申テ。御前ヲ罷立テ  
京師杉原鎌倉半井四本  
云。御前ヲ罷立サマニ。高聲ツフヤキケルハ。和漢  
ニツフヤキケルハ。云々。  
ノ先蹤朝廷ノ禮節ニハ似モ似ヌ事ナレハ。合戰  
ノ道ヲハ。武士ニユツ任ラルヘキニ。道ニモアラ  
又御計ニ如何アラシ。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。信實玄實ヲ待せ給  
ハン事。勢ヲ調テ御覽セン爲カ。  
京師杉原本竝云。勝負ヲ決

シニハ時刻相延ヘシ。云々。 義朝ハ武畧ノ奥義云々。

○半井本云。明日ヲ待せ給ハニ事。軍兵ノカサヲ  
敵ニ見センタメカ。軍セン事如何アラシ。義朝  
ハ云々。

義朝ハ武畧ノ奥義ヲ極タル者ナレハ。定テ今夜  
寄ントソ仕候ラン。明日迄モ延ハコソ。吉野法師  
モ奈良大衆モ入ヘケレハ。只今押寄テ。風上ニ火  
ヲ懸タランニハ。戰フトモ争カ利有ニヤ。敵勝ニ  
乗程ナラハ。誰カ一人安穩ナルヘキ。口惜キ事哉



トソ申ケル。

將軍塚鳴動 附 彗星出事

去程ニ鳥羽殿ニハ。故院ノ舊臣左大將公教卿

將京師本作左大臣杉藤宰相光頼卿光鎌倉本作

原本作右大臣共非也藤長隆子右大辨鎌倉本作

久共右大辨顯時朝臣左少辨共非也據辨官補任

誤此時為ナト籠居シ給ヒケル力京師杉原鎌倉半

申サレケ去ル八日京師杉原鎌倉ヨリ彗星東方ニ出

按一代要記保元元年七月十一日曉彗星見寅方

地陽今從異本占文ノサス所慎更ニ輕カラス新院御所

ニハ軍兵數千騎參集テ公卿殿上人ヲ召ニ參ラ

サル者ヲハ死罪ニ行フヘシト左府議セラルナ

レハ我等トテモ其難ヲ遁ルヘカラス其上京中

ヲ燒拂内裏ニモ火ヲ懸テ攻ニニ行幸他所へ成

ハ御輿ニモ矢ヲ進ラセシト。爲朝トカヤカ

申ナレハ君トテモ安穩ニ渡ラセ給ハンヤ。一院

隠レサセ給テ十箇日ノ内ニ懸ル不思議ノ出來

ヌルコソ淺クシケレ内裏ニモ仙洞ニモ御追善

ノ管ノ外ハ他事オハス間敷ニ。コハ如何成又ル  
 世ノ中ツヤ。天照大神ハ。百王ヲ守ラントノ御誓  
 モ。盡ヌルヤラント申サレケル。京師杉原鎌倉半井  
 四本竝云。伊勢大神  
 官ハ百王鎮護ノ御誓。後カラス。然ルニ今當今御  
 代ニ。王法ツキナシコソ口惜ケレ。云々。此下無光  
 賴卿。光賴卿。熟事ノ心ヲ思フニ。日本ハ是神國也。  
 字。サレハ御裳河ノ流絶スレテ。既ニ七十四代ノ天  
 津日嗣ヲ受給フ。七十四代。四杉原本作六共非也。  
 鎌倉本作七。為得。按。後白川帝實  
 第七十七代。帝也。昔崇神天皇。御間城入彦五十五  
 瓊殖。開化帝皇子。御時。天津  
 社國津社ヲ定置レテヨリ以來。神ワカ事繁キ國ノ

管。只寶祚長久ノ為也。七千餘座ノ神祇。夜ノ守晝ノ  
 守。ナシカハ念リ給フヘキ。就中推古天皇。上豐御食炊  
 屋姫。欽明  
 帝。皇御時。上宮太子。以上六字本書脫。今依諸本補  
 乏。按。上宮太子名。豐聰耳。用明  
 帝皇子也。聖德太子。厩戸皇子。世ニ出テ。守屋。物部  
 上宮太子。八耳皇子。共其號也。尾輿  
 子ノ逆臣ヲ亡シテ佛法ヲ弘メ。四天王寺ヲ建テ  
 國家ヲ祈聖武天皇。天璽國押開豐櫻  
 彦。文武帝皇子。東大寺ヲ建  
 大神宮ノ御本地ヲ顯シテ。帝運ヲ祈請シ給フ。行  
 基菩薩ハ。按。元京釋書。姓高志氏。泉州  
 大鳥郡人。百濟王之亂也。河州石河郡  
 二四十九院ヲ建始給ヒテ。寶祚ヲ鎮護シ給ヒシ

ヨリ、鎌倉本云。行基菩薩ハ泉州大鳥郡ニ住シテ。  
 寺ヲ四十九箇所ニ建、國分寺ヲ六十餘州ニ  
 フ。カチ給傳教大師姓三津氏、最澄父、百枝、比叡  
 山ヲ開基シテ、一乘妙典ヲ崇メ、弘法大師ハ伯氏  
 名、空海、父、田公、醍醐高野山ヲ建立シテ、真言ノ祕  
 帝賜諡弘法大師。  
 法ヲ修行シテ、專天下ノ護持ヲ致ス。殊ニ白河鳥  
 羽、兩院佛法ニ歸シオハシメシテ、國郡數神ニ裁  
 夕リ裁岡崎田園多ク佛聖ニ寄ラル。依テ三寶モ  
 本作載  
 國家ヲ守リ給フヘシ。神明モ帝祚ヲ捨給ハシヤ。  
 其上此京ハ。桓武天皇御宇。延曆十三年十月二十

一日。長岡京ヨリ遷サレテ後、弘仁元年九月十日。  
 平城先帝諱安殿、桓武帝皇子世ヲ亂リ給シカトモ。此京ハ  
 無爲也

○愚管鈔云。平城嵯峨御中事ノ始テアシカリケ  
 リ。都遷ノ間、イニ夕ヒシトモ落イヌ程。御心々  
 ニテアシク成ヌ。ソレモ平城ノ内侍ノカニ藥  
 子カ所爲トイフ。惡キ事ヲモ女人ノ入眼ニハ  
 十ルナリ。嵯峨東宮ノ間、平城國主ノ時東宮ヲ  
 廢シ奉ルヘキ由沙汰アリケリト。後中書王ノ

御物語アリケリ。ツレハ傳大臣冬嗣申ス、メテ事火急ニサフラフ。宗廟ニ申サシメ給フヘシトテ。桓武ノ聖廟ヲ拜シテ東宮祈申給ヒシカバ。天下ニクレ行テ平城此僻事思返ラセ給ヒケリトナシ。語ラセ給ヒケリ。云々。

○帝王編年記云。弘仁元年九月。太上天皇遷御平安宮之間。尚侍藥子寵之。其兄右兵衛督藤仲成謀反之。由風聞。十一日上皇與尚侍同輿向關東。令大納言田村麻呂等追之。射殺仲成。十二日

太上天皇旋宮。剃髮入道。前尚侍藥子飲藥而死。

天下擾亂。藥子所為也。云々。

○神皇正統紀云。上皇平城尚侍藥子ヲ寵シケルニ。

其弟參議右兵衛督仲成等申ス、メテ逆亂ノ事アリキ。田村麻呂ヲ大將軍トシテ追討シラ

レシニ。平城ノ軍破レテ上皇出家セサセ給フ。

云々。按スレ仲成始末。具出於為義最期段。而諸實錄竝為藥子兄。此作弟者。恐誤。

其後帝王二十五代。星霜三百四十七年ノ春秋ヲ

送レリ。二十五代。半井本作二十七代。三百四十七年。作三百四十八年。為是。自平城至後白河。

實二十代也。自弘仁元年至其間二毛朱雀院諱

保元元年三百四十八年也。明醍醐御宇二八將門平良純友藤良東西二亂逆

帝皇子。後冷泉諱親仁後朱御世二八貞任安陸賴良

子賴良後宗任貞任兄弟謀反ヲ企。或ハ八箇國ヲ

從ヘテ八箇年合戰ニ。或陸奥ニ支テ十二年迄防

戰シカトモ。敢テ都ノ亂ニナラス。終ニ皇化ニ導

ヒキ。

ヒキ。

○帝王編年記云。天慶二年平將門謀反武藏權守興世王亦以同意下總國猿島郡石井郷南亭可

爲都朝又左右大臣以下百官皆以點定但所闕

曆博士許也云々。

○扶桑畧記云。天慶二年將門謀反亂逆率千餘人

兵討取常陸國云々。又云。天慶三年二月初日藤

原秀郷平貞盛等率四千餘人兵於下野國與將

門合戰云々。同十四日於下總國貞盛爲憲秀郷

等棄身忘命馳向射合時將門即中貞盛矢落馬

秀郷馳至斬將門頭云々。按將門記將門始起兵

承平六年也至天慶三年僅五年耳此云八箇年

參考保元物語 卷一

八

者未詳

○按扶桑略記帝王編年記天慶二年藤原純友等為海賊西國往還不通同三年按一代要記作四年十一月純友被誅云々歷代皇紀作五年

○按陸奥話記歷代皇紀百練鈔等康平六年二月十六日前陸奥守賴義獻安陪貞任重任散位經清三人首云々帝王編年記一代要記百練鈔歷代皇紀竝云康平七年三月宗任正任等五人引率其身有朝議不入京中放遣伊豫國僧良昭遣

太宰府云々又按陸奥話記貞任父賴良作亂始于永承中至天喜五年賴良滅而貞任等相繼作亂至康平滅此云十二年者蓋永承康平之間矣去ハ今モ誰人カ此京ヲ滅シ何者カ我君ヲ傾ケシ南ニハ正八幡大菩薩男山ニ跡ヲ垂テ京都ヲ守リ北ニハ賀茂大明神天滿天神東西ニハ稻荷祇園松尾大原野等光ヲ雙ヘテ日夜ニ結番ニ禁圍ヲ守リ給フ縱逆臣亂ヲナストモ争カ靈神ノ助ナカルヘキト憑母敷ケニソ宣ケル

主上三條殿行幸 附 官軍勢汰事 主上舊誤作上皇今改之

去程ニ内裏ハ高松殿ナリニカハ分内狹クテ便

宜惡カリナントテ。俄ニ 京師杉原本竝云卯刻半

本、書編次錯 誤說見于下 東三條殿へ行幸成ル。主上ハ御ヒキ

ナヲニテ。腰輿ニ召ル。 京師杉原鎌倉本竝云關白殿云々 神璽寶

劔ヲ取テ御輿ニ入進ラセラル。御供ノ人々ニハ

關白殿内大臣實能。左衛門督基實。右衛門督公能。

半并本作左衛門督 頭中將公親朝臣。 左大臣藤實能子即公能

弟京師杉原 左中將光忠 大納言藤經實子據公卿 本竝不載。

鎌倉半并 四本不載 藏人少將忠親 權中納言藤忠宗子少藏

人右少辨資長。 中納言藤實光子右少辨京師杉原

官補任此時為右少辨 右少將實宣 諸本作實定為

以上二人半并本不載 非也。半并本作左中將為得據公卿補任。少納言入

道信西春宮學士俊憲 信西 藏人治部大輔雅頼大

外記師季等也。 師季半并本不載按師季大炊助中原師綱

子也師業大外記師安子也蓋師季者不當在此時

出子台記等諸書當時之人也因此見

之。作師業者近是然無確據可熟考。 ○京師本杉原本鎌倉本半并本竝載刑部少輔貞

卷之八

○憲大舍人頭家行。中務權少輔季家。少輔鎌倉半井本並作大

輔。上野介重家。上野杉原半井本並作上總。越中權守延俊。杉

本作宣俊半井本作越後守信俊而別載越中守正俊。

○按主上自高松殿遷御東三條殿一節。京師杉原

鎌倉本並載于段尾京師杉原鎌倉半井四本。此

段序次先在高松殿召義朝議策令諸將向白河

殿而後幸東三條殿。今并載其異同。本書及岡崎

本謬誤自著矣。

○百練鈔云保元元年七月十一日。主上渡御東三

條云々。

○皇年代畧記云。保元元年七月十一日曉。俄行幸

於東三條。第云々。

其時義朝御前ニ召レ其時字不穩。編次之誤也。說見于上。京師杉原鎌倉半井

四本。編次各異。姑隨本書所出并載其異。京師杉原鎌倉三本殊異。別出于下。可并見。赤地錦

ノ直垂ニ折烏帽子引立テ。脇立計ニ太刀帶夕リ。

半井本云弓脇ニ挾三參ル云云。少納言入道ヲ以テ軍ノ様ヲ召

問ハル。義朝畏テ申ケルハ。合戰ノ術ヤウクニ候

ヘ共。即時ニ敵ヲ從ヘ。立所ニ利ヲ得ル事。夜討ニ

卷之二



過スル事候ハス。就中南都ヨリ衆徒大勢ニテ。吉野十津河ノ者共ヲ召具シテ。千餘騎ニテ。今夜宇治ニ著明朝入洛仕由聞ヘ候。敵ニ勢ノ屬又前ニ押寄候ハン。

○半井本云。義朝カ舎弟為朝猛ク勇メル兵也。吉野法師奈良法師待附テ。為朝大將仕テ。此内裏ヘ罷向候ナシ。十万騎ノ勢ヲ指向ラルトモ。彼等カ箭サキニハ叶フヘカラス。金ヲ伸テ楯ノ面ニ伏タリ共向ヒ難カルヘシ。其上明日ニ十

ハ兵疲レテ。物具ニ透間候ヘシ。然ラハ合戰弱カルヘシ。云々。

内裏ヲハ清盛ナトニ守護セサセラレ候ヘ。義朝ハ罷向テ。忽ニ勝負ヲ決シ候ハン。トソ進ケル。信西御前ノ床ニ候ケルカ。殿下ノ御氣色ヲ奉リテ申ケルハ。半井本云。信西薄墨染ノ直衣ニ小狐ト申ケル。云々。太刀帶仰ヲ奉リテ。御前。簀子ニ候テハ。云々。此議尤然ルヘシ。詩歌管絃ハ臣家ノ翫フ所也。トイヘ共。ソレ猶昧シ。況武藝ノ道ニ於テシヤ。一向汝カ計ヒタルヘシ。誠ニ先スル時ハ人ヲ

制ス。後ニスル時ハ人ニ制セラルト云ヘハ。今夜ノ發向尤也。然ラハ清盛ヲ留メン事モ然ルベカラス。武士ハ皆々罷向フヘシ。誠ニ先云々至此。半御入興云云。後。為朝威ヲ輕シメ奉ル者豈天命ニ背サランヤ。早ク凶徒ヲ追討シテ。逆鱗ヲ休メ奉ラハ。先日來申處ノ昇殿ニ於テハ。疑アルヘカラスト申サレケレハ。義朝合戦ノ場ニ罷出テ。何ノ餘命ヲ存セン。只今昇殿仕テ。冥途ノ思出ニセントテ。押テ階上ヘ上リケレハ。信西コハ如何ト制

シケリ。主上是ヲ御覽シテ御入興有ケルトナリ。半井本云。義朝合戦ノ場ニ罷向テ。命ヲ全フセシ事ヲ存セス。死シテ後ハ何カセニ。只今聽サレサラニ昇殿ハ。イツヲ期スヘキトテ。押テ階上ル。信西狼藉也ト申。主上ハアサ笑ヒ御興ニ入給フ云々。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。高松殿ニハ。南殿ニ出御公卿僉議アリ。信西末座ニ候ス。袖小ナル淨衣ニ。家ニ傳タル小狐ト云ムク鞞ノ太刀ヲ帶。信西宣旨ヲ奉リテ。義朝ヲ召。義朝赤地錦。鎧直垂ニ。脇楮小具足計ニテ太刀ヲ帶。烏帽子引

立庭上ニ跪ク。信西ヲ以テ仰下サレケルハ。汝ナキ親元弟ヲ捨御方ニ參ル條。尤敵感甚シ。然レハ大將ニ於テハ。汝ニタフ。忠節ヲ抽テハ。日來所望ノ昇殿不日ニ聽元サルヘキ也。其旨ヲ存知仕候へ。義朝畏テ申ケルハ。家ニ申傳タル事候。軍ニ出テ死ハ存ノ中ノ事。生ハ存ノ外ノ事也。然レハ愚命ニ於テハ。故院ノ御遺誠并宣旨ノ趣ニ換カスレハ。骸カミヲ戰場ニ曝ササニ事只今也。サレハ生テ再歸參スヘクハコソ。後榮ヲモ期サヌ。

天運ニ任スルヨリ外ハ。恃タ少キ命也。後日ニ救許有ヘクハ。只今宣旨ヲ下サレタク候。其故ハ所望達シヌト存セハ。今少勇ム心モ候ヘシ。所望達セスシテ。ニツナキ命ヲ捨ニ事ハ。妄念共成。且ハ無念ニ候ヘシトテ。階下ニ近ク進ヨル。信西是コソ難義ノ次第ナレ。義朝カ先祖頼義義家朝敵ヲ平ケ。昇殿ヲ聽サルレトモ。親父為義イマタ正シキ地下ノ檢非違使タリ。其子トシテ忽昇殿ヲ聽サレニ事如何アルヘカラシ

ト奏シケレトモ。亂世ハ武ヲ以鎮ムヘシトイ  
 へリ。世既ニ亂タリ。義朝ヲ抽賞セスハ有ヘカ  
 ラスト云宣旨ノ下リケル上ハ。仔細ニ及ハス。  
 即其姿ヲ改メス。兵具ヲ帶シナカラ。階ヲ半ハ  
 カリ攀上ル。昇殿ノ儀式珍ラカ也。其後合戦ノ  
 次第計申ヘキ由仰下サル。義朝申ケルハ。合戦  
 ノ道區々ニ候ヘトモ。敵ヲシエタクル事ハ夜  
 討ニシカス。天ノ明サルサキニ。陣頭ニ押寄テ。  
 敵ノ上手ヲ打。是一ノ謀也。就中左府ノ權威ヲ

以テ南都ノ衆徒ヲ召ル。其勢既ニ千餘騎ニ及  
 ヒ。明日參向スヘシト聞ユ。又舍弟為朝ハ父為  
 義ニ屬シ。仙洞ニ祇候仕テ候。キヤツハ合戦ノ  
 道ニ賢シキ者ニテ候。彼輩ヲ相具シ押寄ニニ  
 ハ。縱百萬騎ノ勢ヲ向テ。金ノ伸テ楯ノ面ニク  
 セタリトモ。是ヲ禦キ難シ。其上敵ノ寄ルヲ相  
 待。徒ニ日數ヲ送ルナラハ。人馬力疲。合戦ノ時  
 弱カルヘシ。此御所ヲハ清盛ナトニ守護サセ  
 ラレテ。義朝ハ時刻ヲ廻サス。夜中ニ押寄勝負

シ決スヘシト申。信西詩歌管絃ハ臣下ノ樂ム  
 所也。其道猶以暗シ。況武道ニ於テシヤ。合戦ノ  
 道ニハ深ク汝シ頼思召所也。況又先スル時ハ。  
 人ヲ制シ。後ル、時ハ人ニ制セラルト云ヘリ。  
 敵ノ上手ヲ撃ニト申條尤以肝心也。速ニ罷向  
 フヘシ。兼テハ東國ノ勇士。汝ニ相從テ。多ク御  
 方ニ參ル由。粗敵聞ニ及フ。是又敵感ナキニ非  
 ス。義朝力多勢ハ。天運ノ然ラシメ給フニ非ス  
 ヤ。君ノ功ヲ立ニトスル時ハ。必心ヲ將ニ推ス。

勝ヲ求ル時ハ必愛シ兵ニ致ス。將ハ君ノ恃ム  
 所。兵ハ將ノ恃ム所。譬ハ身ハ臂ヲ使ヒ。臂ハ指  
 ヲ使フコトシ。朝敵ト成者ハ天譴ヲ蒙ルモノ  
 也。速ニ其輩ヲ誅シテ宸襟ヲ休メ奉リ。公ノ忠  
 シ抽テ。勲功ノ賞ニ誇ルヘシトソ仰ケル。下野  
 守畏承テ罷出。義朝本陣ニ歸物具ス。其日ハ家  
 ニ傳ルハ龍ヲ著タリ。ハ龍トハ龍ヲハツ、打  
 テ。一ノ板ニ附ル故也。京師杉原本竝云。ハ龍ト  
 ノ時。ハ幡大菩薩ノ使者ノ神ハ神守護ノ為。ハ  
 大龍王ノ形ヲ金ヲ以内魂ノ真向。鎧ノ胸板ヲ

二ツケ。所々ニ附ケル間。八龍トソ名附タル。八  
 領ノ鎧ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重寶也。然綱嫡ケル。ル  
 二。鑄懸地ノ金覆輪ノ鞍置テ引立タル云々。既  
 鞍ニ手打カケテ。馬ニ乗ントセラレケルカ。如  
 何思ヒケニ。手ニ拔入タル鞭ヲ拔出シテ。車宿  
 リニヌテル車ノ立フチニ是ヲトチ附サス。兵  
 共是ハ何事ノ立鞭ソト心得ス見ル所ニ。義朝  
 日來望ツル昇殿ヲ。只今聽サレタルソ。陣頭ニ  
 骸ヲ曝サカニ事只今也。誰カハカ、ル事アリト  
 モ披露スヘキ。サレハ若キ子共ノ中ニ生殘ル

者アラハ。我父ハ、ヤ昇殿聽サレケリト是ヲ見  
 コカシト思フ。忘形見ニコソト語ケレハ。兵皆  
 鎧ノ袖ヲ濡ヌシケル。其後馬ノ腹帶ヌシメ。兜  
 ノ緒ヌシメテ既ニ打出ケルカ馬ヲ控へ半井  
載此下、一節云。内裏ニテ義朝兵共ノ中ニ打立  
紅ノ扇日ヲ出シタルヲ開キ使云々。而出於帝  
召問策之前恐誤。恩管  
鈔說出下。可并見  
 ケルハ。義朝武勇ノ家ニ生レテ此事ニ逢身ノ  
 幸也。私人合戰ニハ。朝威ニ恐テ思フ様ニモ振  
 舞ス。今宣旨ヲ承ル上ハ憚ル所ナシ。藝ヲ此時

ニ施ホトシ名ヲ後代ニ留ムベシトテ威ツシ振ツテフ  
進ケル云ケ。○愚管鈔云内裏ニハ義朝カ申ケルハ如何角イ  
ツトモナクテサハヘタル御計ハ候ニカ軍大  
道ハカクハ候ハス先只押寄テ蹴散クシ候テノ  
上ノ事ニ候為義頼賢為朝具シテ既ニ參候ニ  
ケリ親ニテ候ヘトモ御方ニカクテ候ヘハ罷  
向候ハ、彼等モ引候テシ物ヲ只寄候テシト  
頭ヲ搔テ申ケルニ十日一日ニトキレス通憲

法師候テ如何如何ト申ケルニ法性寺殿御前  
ニヒシト候テ目ヲシハタハキテウチ見上ウ  
チ見上見テ物モイハレサリケルヲ實能公能  
已下是ヲマホリテ候ケル程ニ十一日ノ曉サ  
ラハトク追散シ候ヘト云出サレタリケルニ  
義朝ハ喜テ日出シタル紅ノ扇ヲハラクトツ  
カヒテ義朝軍ニ逢事何箇度ニ成候ヌル皆朝  
家ヲ恐レテ如何ナル答ヲカ蒙リ候ハンスラ  
ント胸ニ先コヌヘテ恐候キ今日追討ノ宣旨

○愚管鈔云内裏ニハ義朝カ申ケルハ如何角イ  
ツトモナクテサハヘタル御計ハ候ニカ軍大  
道ハカクハ候ハス先只押寄テ蹴散クシ候テノ  
上ノ事ニ候為義頼賢為朝具シテ既ニ參候ニ  
ケリ親ニテ候ヘトモ御方ニカクテ候ヘハ罷  
向候ハ、彼等モ引候テシ物ヲ只寄候テシト  
頭ヲ搔テ申ケルニ十日一日ニトキレス通憲

蒙テ。只今敵ニ逢候又ル心ノ涼ニサコソ候ハ  
子トテ。清盛ト手ヲ分テ。三條内裏ヨリ。中御門  
ニ寄參ケル。云々。

十一日寅刻。官軍既ニ院ノ御所へ押寄ル。折節東  
國ヨリ軍勢上リ合テ。義朝ニ相從フ兵多カリケ

リ。先鎌田次郎正清藤通清子。此下京師杉原鎌倉  
半井四本載河内源太朝清鎌

倉本半井本不名。河内。半井本作河原。少始トシテ。後藤兵衛實基藤實

速。近江國ニハ佐々木源三秀義源。俊子八島冠者重實

子。美濃國ニハ平野大夫大夫。京師杉原鎌倉  
半井四本作平太吉野

太郎半井本無野字。尾張國ニハ舅熱田大官司按系譜名  
季範。姓藤

原。父曰季兼。為熱田大官司。先是為大官司者。世尾

張氏也。自季範補祠官。改藤氏云。五葉集神祇部載

尾張貞職女。嫁藤原季兼。生季範。嘗有神力奉ル家

託。季範始為祠官。自是藤氏世々相承。力奉ル家

子郎等。三河國ニハ志多良京師本杉原本作設樂  
兵藤武者。武者半井本

作武士。鎌倉遠江國ニハ横地勝

倉本作三。中條京師杉原鎌倉無遠江國ニハ横地勝

侯井八郎駿河國ニハ入江右馬允半井本有  
三郎字。高階

十郎高階京師杉原岡崎本興津四郎  
興津本書及

津今從杉原蒲原五郎蒲原舊作神原。今從  
本鎌倉本。伊豆ニ

八狩野工藤四郎親光藤茂光子。四郎系  
圖及東鑑作五郎。同五郎親



成相模二八大庭平太景吉同三郎景親景吉平井

為是。按景義景親世系。系圖諸本有異。山内須藤刑

同。具見本書第二卷白河殿攻落段。部丞俊通藤義通子。須藤京師本其子龍口俊綱海

老名源八季定源太。東鑑作源三季貞。秦野次郎

延景秦野。杉原鎌倉半井本並作波多野。為是。下皆

小次郎義通。半井本作和田。又誤。京師杉原鎌倉本作

二。唯岡崎本前後作義通。今按世系未詳。系圖一本

佐藤筑後權守遠義子。有波多野次郎義通。義景義

景子。有信景。難通從耳。且諸異本或稱義通。或延景

信景。共是為一人。未知孰是。下並偽之。又按東鑑以

波多野義通為筑後權守遠茂二男。以義景為義通

子。與系圖異。荻野四郎忠義京師杉原鎌倉安房二

也。可并考。

八安西金餘沼平太九太郎武藏二八豊島四郎京

師本作手。半井本戴安達四郎遠光。中條新五。新六。成田太郎。箱田次

郎。箱田京師本作蓬。河上三郎。三郎。半井本作太郎。

杉原本不載。別府次郎。奈良三郎。玉井四郎。長井齋藤別

當真盛半井本作真守。非也。鎌倉本作實盛。為是。下

皆偽之。按系圖實盛藤實直子。長井流。號齋

藤子孫在武藏。號在藤。本姓在原也。云々。未知何據。

又按系圖實直下云。養子。然則實直本姓在原。歟。未

詳所同三郎真貞。京師杉原鎌倉半井四本不名。系

由同各出。于下。

○半井本云。横山二八惡二平山六一源五二郎熊

谷次郎直實平直貞子榛澤六郎成清了井八ヲ上猪

股二八岡部六郎近平六按系圖猪股小平六名範綱小野資綱子河

勾三郎手基七郎兒玉二八庄太郎同次郎村山

二八云云

○京師本杉原本竝云丹治成清榛澤六郎京師本無六郎

字兒玉二八庄太郎同三郎秩父武者所京師本無所字

栗原京師本作栗飯原太郎猪股二八岡部六彌太金平

六河津京師本作河勾三郎手薄加七郎村山二八金子

十郎山内京師本作山口六郎仙波七郎西二八日次惡

次平山高家二八云々

○鎌倉本云兒玉二八惡次平山栗飯原上猪股二

岡部六彌太金平六河勾三郎手科七郎庄二郎

秩父武者高家二八云云

横山惡次惡五平山相原兒玉二庄太郎岡崎本載同次郎

猪股二岡部六彌太按系圖岡部六彌太名忠澄藤秦綱子又系圖異本云姓小野

氏行村山二金子十郎家忠平家山口十郎半井本範子作山口

六郎本書第二卷作仙波七郎自村山至此高家二

諸異本高家二八河越云々按高家非仙波名也系圖一本云村山小七郎平家繼後稱山口其子有山

口六郎家俊。仙波七郎家信。河越師岡。杉原本作師

蓋此云山口仙波即是矣。岳錄倉本半

井本作秩父武者。京師杉原鎌倉本不上總二八介

八郎。鎌倉本作弘常。半井本作廣繼。按系圖作廣常。

于此故唯註其父。下總二八千葉介經胤。胤諸本作常

常重。上野二八瀬下太郎。太郎京師杉原鎌倉半井

字。物射五郎。物射鎌倉岡本介。杉原本有五郎字。本

名波太郎。名波杉原鎌倉半井。下野二八八田四郎。按

圖。八田知家號四郎。藤宗綱子。或云實源足利太郎。按

義朝子賴朝兄。此云八田四郎。蓋知家歟。

按名俊綱藤家綱子。京常陸二八中宮三郎。京師本

師杉原鎌倉三本不載。

郡三關二郎。名俊平。藤政家子。按東鑑云。小山朝政

俊平弟。有太郎四郎政平。朝政再從兄弟也。第二

卷白河殿攻落段。半井本作關次郎俊平。可并見甲

斐二八鹽見五郎。鹽見鎌倉本。同六郎信濃二八海

野望月諏訪時桑原安藤。京師杉原鎌倉半井本並

者。桑原安藤次。安藤三。云々。木曾中太。彌中太。根井

京師本半井本。蔣田作舞田。大矢太。半井本作下根并大野太。按

作甚。半井本作新。按系圖。稱親子。根津神平。神京

津神平。名貞直。滋野道直子。靜妻小二郎。靜妻本書

鎌倉本作志。津摩半井本作志。片桐小八郎大夫。崎岡

本云。名景重。按系圖。片桐作熊坂四郎。始卜云。

三百餘騎トヲ註シタル京師本杉原本云宗徒ノ兵四百餘騎都合一千餘

騎云々鎌倉本云郎等乘替都合四百餘騎ニテ馳

向云々半井本云宗徒ノ者二百五十餘騎ニテ馳

今改清盛ニ相從フ人々ニハ弟常陸介頼盛介頼盛作字

淡路守教盛京師杉原鎌倉三本大夫經盛嫡

子中務少輔重盛次男安藝判官基盛郎等ニハ

○京師本鎌倉本竝云郎等ニハ季貞貞能盛國平

子盛俊盛俊世系出平古市伊藤武者云々

筑後左衛門家貞按系圖諸本世系不一或作駿河

京進正季曾孫進平太範季孫進三郎大夫季房子

平家物語曰家貞者本工頭貞光孫進三郎大夫家

房子盛衰記曰進三郎大夫季房子左兵衛尉家貞

蓋一人也其子左兵衛尉貞能半井本作同新與三

兵衛景安半井本作景康

○半井本載新兵衛尉家季薩摩右馬允兵藤瀧口

兼季同小太郎兼道八幡美豆左近將監同太郎

同次郎河内草香授源大夫按此下本書屬頼政

此載授源大夫伊勢國ニハ云云

民部大輔為長其子太郎為憲河内國ニハ草刈部

十郎大夫定宣草刈部杉原瀧口家綱同瀧口太郎

家傳元物語 卷一

家次伊勢國二八故市半井本作古舊伊藤武者景

綱同伊藤五忠清伊藤六忠直同京師杉原鎌倉三

本云白子黨伊賀二八山田小三郎惟之本此下半井

ノ者云々杉原本鎌倉本作惟行半井本或作惟行或是行

系圖不見餘無所考此下半井本云昭彌次郎備前國住人難波三郎經房鎌倉本作難波

本三郎作次郎不名半備中國住人瀨尾太郎兼康

井本載同四郎光兼和泉左衛門尉信兼八十餘

鎌倉本作兼保シ始トシテ六百餘騎トフ註シ夕ル

和田平太遠藤六播摩次郎筑岐源太其勢都合六

兵誰々先渡邊黨二省播磨次郎授薩摩兵

衛省連源太源教與右馬允省競龍口源昇丁七嘯

教子半井始トシテ二百騎許也半井本百騎

師本鎌倉本云頼政百餘佐渡式部大輔重成百騎

京師本鎌倉本作七十餘陸奥新判官義康百騎出

羽判官光信百騎周防判官季實五十騎京師鎌倉

作百隱岐判官惟重七十餘騎京師鎌倉半井平判

官實俊六十餘騎京師鎌倉半井進藤判官助經

五十餘騎京師鎌倉半井和泉左衛門尉信兼八十餘

騎。京師本鎌倉本不載。左衛門。半井。都合一千七百餘騎トヲ註シタル。  
本作右衛門。其勢七十餘騎。云云。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。都合四千五百餘騎。

鎌倉本云。義朝ハ二條ヲ河原ヘ出。其外ハ追々打出。而無以下文。賴政ハ一陣ニ

コソ進ケレ。半井本云。春日末ノ門ヘ馳寄ケル。而無以下文。比ハ七月

十日夜曉闇ノ空ナレハ。東西ノコトモ知子ト

モ。敵ノ籌ヲシルヘニテ。大炊御門東京師本ノ

河原ニ打出云云。此。下京師杉原鎌倉半井四本

載。主上遷幸。東三條。說見所前。

而下又載一節。各出于左。

○京師本杉原本鎌倉本並云。左大臣殿又爲義ヲ

召。世間ノ事合戰次第御談合アリ。判官申ケル

ハ。爲義既老骨ヲ振テ參候ノ上。所存ノ旨ヲ爭

カ一言申サテ候ヘキ。案レ候ニ。内裏ニ參集ル

兵共其數候トモ。思フニサコソ候ラヌ。爲義此

勢ヲ以テ。ナトカ防カテ候ヘキ。若此御所ヲ出

サセ給ハハ。南都へ御幸成シ奉リ。宇治橋ヲ引

テ。暫ク世間ヲ御覽候カ。ソレニ猶叶ハスハ。東

國へ御幸ヲ成シ奉リ。足柄箱根ヲ伐塞キ。東八  
箇國ノ相傳ノ家人等相催シテ。都へ返シ入進  
ラセシ事。案ノ内ニ候ト申ケレハ。左大臣殿為  
義カ條々ノ申狀。其理然ルヘシ。但我君ハ是天  
孫ノ御末ヲ受マシクテ。御裳濯川ノ流ミエ。忝シクマ  
シクキ。縱御位ヲ去給フトモ。太上法皇第一御  
子。御在位ノ間萬國穩ナリキ。一宮又嫡々ノ正  
統ニテ渡ラセマシマス。然ルヲ負外ノ四宮ニ。  
位ヲ超ラレマシマス事。神慮ノ御誤人望ノ遺

恨只此事ニアリ。然レハ此時如何ナル御計ヒ  
モナクハ。何ノ日ヲ期シマシマスヘキ。サレハ  
此御所ヲ退テ。他所へ出サセマシマサシ事。一  
切アルヘカラス。志ヲ勵マシ。忠節ヲ抽テ軍功  
ヲ極メ。朝恩ニ誇ルヘキ也ト仰ケレハ。サテハ  
善惡。為義先命ヲ捨テ左右アルヘキ也トテ罷  
立。云云。

○半井本云。左大臣殿為義ヲ召。閑ニ御問答アリ。  
此世中ハ如何アルヘキ。合戰ノ様計申ヘシト

仰ヲ蒙テ申ケルハ。御所ノ兵ヲ以テナトカコ  
ラヘニ候ヘキ。此御所ヲ出サセ給ハヌ物ナラ  
ハ。合戦ニ於テハ。先為義命ヲ捨テ。其後勝負ハ  
見ルヘシ。若此御所ヲ出サセ給ハヌ。云云。此間  
為義問答文。與京師杉。此時如何ナル御計モナ  
原鎌倉本粗同。故畧之。クハ。イツノ日ヲカ期サセ給フヘキ。汝等命ヲ  
輕シ。莫大ノ勲功ニ誇候ヘト仰含ラル。云云。

○愚管鈔云。十一日議定アリテ。世中ハイカニク  
ト訂リケルニ。為義ハ新院ニ參テ申ケル様ハ。

無下ニ無勢ニ候。即從ハ皆義朝ニ附候テ。内裏  
ニ候。僅小男二人候。何事ヲカハシ候ヘキ。此御  
所ニテ待軍ニ成候テハ。少ヒ叶候ニシ。伊弉  
クテ。只宇治ニ入セオワシマシテ。宇治橋引候  
テ。暫モヤ支ラレ候ヘキ。サ候ハフハ。唯近江國  
ニ御下向候テ。甲賀山ヲ背ニテ坂東武士候  
クシ。遅夕參候ハ。關東ニ御幸候テ。足柄山  
切塞キ候ナハ。漸京中ハ夕、上候ハシ物ヲ。東  
國ハ賴義義家カ時ヨリ。為義ニ從ハヌ者候ハ



ス。京中ハ誰モ誰モ事カララズコク窺ヒ候テハ。  
 世メテナラハ。内裏ニ参テ。一アテシテ。侍カニ  
 モ成候ハ。ヤト申ケルヲ。左府。御前ニテ侍知  
 クナ急キソ。只今何事ノアランスル。當時是  
 一無勢氣ナリ。大和國ヒカキノ冠者ト云者ア  
 リ。吉野ノ勢催ヒテ。頓カタテイソキ参レト仰テキ。  
 今ハ参ルラン。シハシアケルニテトシツメラ  
 レケレハ。コハ以ノ外ノ御事哉トテ庭ニ候ケリ。

参考保元物語卷第一 終

